

事業名	放課後児童対策費	財務コード (事業)	203504
-----	----------	---------------	--------

細事業名	放課後児童指導員等研修会開催事業費
------	-------------------

担当部課室	福祉保健 部 児童家庭 課 子育て支援 担当 (内線)	3160
-------	-----------------------------	------

事業の概要

実施期間	始期 H10 年度 ~ 終期 年度			
実施主体	県(委託)			
事業の目的	<table border="1"> <tr> <td>誰(何)を対象に 放課後児童指導員、児童厚生員等</td> <td>その対象をどのような状態にして 必要な知識及び技術を習得し、資質の向上が図られている。</td> <td>結果、何に結びつけるのか 児童の健全な育成</td> </tr> </table>	誰(何)を対象に 放課後児童指導員、児童厚生員等	その対象をどのような状態にして 必要な知識及び技術を習得し、資質の向上が図られている。	結果、何に結びつけるのか 児童の健全な育成
誰(何)を対象に 放課後児童指導員、児童厚生員等	その対象をどのような状態にして 必要な知識及び技術を習得し、資質の向上が図られている。	結果、何に結びつけるのか 児童の健全な育成		
事業の内容 主に 24年度	<p>事業概要</p> <p>事業の目的 放課後児童指導員等に対して必要な知識及び技術の習得のための研修を行うことにより、指導員等の資質の向上を図ることで、次世代を担う児童の健全育成を支援する。</p> <p>研修の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブの機能や児童健全育成の目的、児童期の発達課題等を理解するための理論科目 児童の健全育成に資する集団ゲームや運動あそび等についての指導技術を習得するための実技科目 <p>事業実績(H24年度)</p> <p>研修会数 4回(理論4科目) 受講者数 515名 委託料 194,891円 委託先 山梨県児童館連絡協議会 H25年度についても同様の内容で実施</p>			
根拠法令等	放課後子どもプラン推進事業実施要綱			

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	23年度	24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	研修会受講者数	448	480	515	500	1000	活動指標 目標設定の考え方 過去の実績を参考に設定
	活動指標達成率 (実績値/目標値)		107.3 %				データの出典等 過去の実績数値
成果指標	研修会参加者アンケートにおいて「業務に生かせる内容であった」と回答した参加者の割合	89.0%	90.0%	88.9%	90.0%	90.0%	成果指標 目標設定の考え方 過去の実績を参考に設定
	成果指標達成率 (実績値/目標値)		98.8 %				データの出典等 過去の実績数値
決算額、予算額	194		195	195	401	成果指標によらない成果 児童健全育成のための専門的知識・技術を身につけることにより、指導員等の現場での指導力の向上が図られている。受講者からは、「児童との関わり方が学べた」、「児童一人一人の環境に配慮して指導していくことの大切さを学んだ」、「研修会の回数を増やしてほしい」等の意見が多くあった。	
(千円) うち一財額	129		130	130	268		
所要時間(直接分)	20 時間		20 時間	20 時間	20 時間		
所要時間(間接分)	2 時間		2 時間	2 時間	4 時間		
所要時間計	22 時間		22 時間	22 時間	24 時間		
人件費コスト 単位:千円 (@2,050円×所要時間)	45		45	45	49		

これまでの事業の見直し・改善状況

平成20年度までは県が直接実施していたが、平成21年度から山梨県児童館連絡協議会への委託事業とした。

活動量と成果の判断(平成24年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定 H24年度 活動指標 達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定 H24年度 成果指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記入すること
b	b	目標値90.0%に対し、実績値88.9%、成果指標達成率98.8%となり、意図した成果はほぼ上げている。また、受講者からは、「児童との関わり方が学べた」、「児童一人一人の環境に配慮して指導していくことの大切さを学んだ」、「研修会の回数を増やしてほしい」等の意見が多くあり、指導員等の現場での指導力の向上につながっている。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

見直しの必要性(平成26年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)

見直しの必要性	説明	以外の判断項目
有	平成26年度中には、放課後児童指導員の資格や員数、対象児童の拡大について市町村条例で基準を定めることとなり、条例が施行される平成27年度からは、全ての放課後児童指導員が「児童の遊びを指導する者」の有資格であることと、指導員の増員が必要となることが見込まれる。 県が児童館連絡協議会に委託して実施している当該研修は、(財)児童健全育成推進財団が認定する「児童厚生二級指導員」の資格取得に必要な科目として認定されていることから、指導員の量を確保するため、現行年4回実施している研修会の回数を増やし、2年以内に資格を取得できるよう支援する。	b・e

・「以外の判断項目」の欄
必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施) 官の役割分担
(g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

見直しの方向(平成26年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
拡大	現在年4回行っている研修回数を年8回に増やし、資格を持っていない放課後児童指導員が、2年以内に資格が取得できるよう支援していく。 また、この事業の委託に当たっては、指導員が研修に参加しやすいよう、午前と午後、1日2回の開催とするなど、開催形態等を工夫する。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。